

「湖東の環境活動展」開催

環境フォーラム湖東や会員団体の活動をパネル展示でご紹介いたします。お気軽にお立ち寄り下さい♪
詳しくはホームページをご確認ください☆

日時：平成 28 年 12 月 6 日(火)～12 月 12 日(月)

場所：ビバシティ彦根センターモール

<http://www.vivacity.co.jp/>

入場料：無料

環境シンポジウム開催

滋賀県立大学の湖風祭にて、シンポジウムを開催します！
講演会やトンボの生き物調査の表彰、またブース展示では活動紹介やトンボの写真等もたくさん展示します。
お気軽にご参加ください♪

(1) 講演会 ～滋賀県におけるトンボの現状～

講師 トンボ研究会 澤田弘行氏

滋賀県にはどんなトンボがいるのかなあ～？

(2) 表彰式

トンボの生き物調査で、みなさんからご報告いただいたトンボの情報や記録の中から、優れた方を表彰します。



▲環境シンポジウム昨年の様子

日時：平成 28 年 11 月 13 日(日)

13:10～14:40

場所：滋賀県立大学 屋外ブース

彦根市八坂町 2500

※雨天時は講義室

入場料：無料

主催 環境フォーラム湖東

☎ 0749-27-2255

🌐 <http://www.f-koto.org/>

お問い合わせ、
詳細はこちらまで！

環境フォーラム湖東 滋賀県の「マザーレイク 21 計画」に基づき、計画を具体的に進めるために住民・事業者・学校・行政によって設立された湖東圏域の地域フォーラム。環境意識の向上と会員のネットワークを構築し、各種活動を展開して環境問題に対する理解を深めるとともに、湖東地域からよりよい環境を創りだしていくために活動しています。

編集後記

■今回お話を伺って、農業を通じて直売所の運営や食育事業などの新しい事業に意欲的に取り組んでいく姿勢に感銘を受けました。前向きに新しいことに挑戦することの大切さを改めて知ることができました。(G/SN)

■私は農家訪問に参加するようになってからまだまだ日が浅いですが、くよもん農園さんを訪問してまた新しい農業への価値観に触れることができ、刺激になりました。様々な夢や目標をもって取り組んでいくことで前向きに道を切り開いていく。あらゆるものごとに対して、私もそのような姿勢で取り組んでいきたいです。(G/NM)

環境フォーラム湖東 新規会員募集中！

ちょっと環境の勉強をしてみたいという方、すでに環境に関する活動をされている方や企業・団体など、どなたでもご参加いただけます。右記事務局までお気軽にお問い合わせください。詳細をご連絡いたします。



環境フォーラム湖東 情報交流誌

エコトピア 第28号

平成28年10月

発行：環境フォーラム湖東

連絡先：〒522-0071

彦根市元町4-1

滋賀県湖東環境事務所内

電話：0749-27-2255

FAX：0749-27-1688

URL：<http://www.f-koto.org/>

<http://www.facebook.com/f.koto.org>

f.koto.org

エコトピア

ecotopia

No. 28

Photo Gallery

湖東の生き物の仲間



アサギマダラ

マダラチョウ科

アサギマダラは旅をするチョウとして有名です。日本列島北海道辺りから台湾、香港あたり約2千～3千kmを春は北上、秋は南下します。春に北上したチョウは山地や高地で5～6月に食草に産卵することが確認されています。一夏で成虫になったチョウは北の方から順次南下、70日から80日かけて南国へ戻ります。

湖東地方ではこの途中を見ることが出来ます。旅の途中でヒヨドリバナやアザミ、ツワブキ、コシアブラに羽を休めていたら無事に帰れるよう、そっと見守ってやりたいものです。



■「生涯一農家」を掲げて

平成7年から専業農家になったくよもん農園は、平成9年に父の後継者として就農した久保田さんを中心として経営されています。耕作面積は時期を変えて、米30町、野菜10町、大豆20町、麦20町、農地面積としては50町という規模を誇ります。平成24年には、農作業の規模拡大に伴った雇用の増加により、法人化しました。育てている作物は米を中心に白菜、冬キャベツ、大根、ねぎなどがあります。今はキャベツがメインだそうです。就農後約5年後にブルーベリーを始められました。ブルーベリーは需要がとて高かったそうですが、一方で景気に左右され売れない時期もありました。

久保田さんの家族のお話の中では、祖父が「米は米で売ってはいけない、すしで売れ」と言っていたというエピソードがとて印象的でした。久保田さんは以前、アメリカで2年間農業研修、野菜作りをしておられ、従業員500人、2000ヘクタールという広大なアメリカの環境下での経験は今の自分の農業のやり方にも繋がっているところがあるとおっしゃっていました。

■直売所の発足

農家は作った方がいいが売ることができない場合が多いため、売り場が必要だと感じた久保田さんは、その時直売所を始めることを決意しました。

一番に米を売りたいという強い思いを持った久保田さんは、ブルーベリーで集客してから、米を売りたいという狙いも明かしていました。地元の人たちによって昔ながらの製法で丁寧に育てられたブルーベリーは7月から8月初旬が最盛期。ブルーベリー狩りも地域の人々に対して催されています。また、直売所は養護学校の学生を就労体験で受け入れているという側面も持っています。はじめは作業でくたくたになっていた彼らは、農作業をするうちに次第に表情が輝き、成長していったといいます。インタビュー中、直売所に訪れた人たちは嬉しそうに久保田さんに話しかけて中へ入っていきましました。売るだけではない直売所の新しい姿を見た気がしました。

「えこチャンネル」は湖東地域の環境活動団体を紹介するコーナー。今回は、専業農家として直売所をはじめとした様々な活動を行っておられる「株式会社カネク くよもん農園」の久保田九さんにお話を伺いました。

■食育の未来を見据える

久保田さんは、日本の食を守るためには、ある程度の輸入や農薬の必要性も考慮しつつ、その上で、日本の食を、食べ物の循環や環境への関わりをもっと知って欲しいとも言います。これからの展望を質問すると、たくさんの思いを聴くことができました。一つ目は加工業者へ出荷するための大量生産と、量は少なくとも、こだわって作ったものを販売するという二極化をすること。

二つ目は写真を駆使して生産者の顔が見えるような直売所にすること。三つ目は食育を広めるということ。食育はまだ小学校までしか普及していません。かつて高校生とディスカッションをしたときに、TPPや農業の話をしてピンときていなかった様子がショックだったそうです。中学から子供を産むまでの世代の人に食育を広めたい。農業体験の実施、収穫後の野菜を食べてとれたての美味しさを大人にも知ってもらいたい。食育を通して安心して食物を食べてほしい。高くても何故日本の食を選ぶのかの意義を知ってほしい。日本人の胃を私達が守っているのだとも久保田さんは言います。

今後も課題は山積みようです。それでも前向きにこれからの夢を語る久保田さんの姿を見て、私たちの世代ももっと積極的に農業や作物のことを知らなければならぬと思いました。



インタビュー：長谷美智留、鹿間奈々栄
〔滋賀県立大学グリーンコンシューマーサークル <http://guricon.net/>〕

株式会社 カネク くよもん農園

愛知県愛荘町東円堂958番地

☎ 0749-42-4809

🌐 <http://www.kuyomon.com/>

農産物直売所 くよもん農園

愛知県愛荘町東円堂2543-5

☎ 0749-42-8311

琵琶湖のある滋賀県、水と緑豊かな愛知川近くにある農園で作っています。ミネラルウォーター等で有名な鈴鹿山系を源とする水と、近江盆地に降り注ぐ太陽。大自然の環境の中でこだわり農作物を作り続けている農家です。

湖東の生き物調査

「トンボ観察会」を開催しました

環境フォーラム湖東では、身近な場所にいる生き物とその生息環境を、子どもから大人まで幅広い世代で観察し、地域の環境に関心を持っていただくきっかけとなるよう、自然観察会を行っています。

今年度もトンボをテーマに観察会を実施しました。時期（初夏、盛夏、初秋）と場所（里山、沼地、田んぼ）を変えて3回開催し、いずれの日も天候に恵まれ、湖東地域を中心に県内外各地からたくさんご参加いただきました。また、トンボ観察会の開催は3年目ということもあり、リピーターの方々にも多く参加していただきました。参加者の皆様には、観察会を通して、湖東の自然の豊かさを再認識していただけたかと思えます。

観察会では、トンボ研究会の澤田弘行氏および濱村友夫氏を講師に迎え、トンボの見分け方などの説明の後、それぞれが虫取り網を手にトンボを捕まえ観察しました。最後に観察会のまとめとして、その日見つけたトンボについて講師から解説していただきました。各会場の様子は次のとおりです。



彦根会場にて



愛荘会場にて

多賀・甲良会場 6月4日（土）

1回目の観察会は、途中で移動をはさんで2箇所の会場で行いました。最初が多賀会場では、飛んでいるトンボの数は控えめに思われましたが、猫田池の水際の草むらにはイトトンボの仲間が多くとまっており、目が慣れた子ども達は次々に見つけては網をふるっていました。

移動先の甲良会場は昨年度に引き続きの開催で、2つの溜め池で観察を行いました。溜め池間の移動中も含めたくさんのトンボが飛んでおり、昨年度は見られなかったムカシヤンマやフタスジサナエも観察されました。

この日は2箇所の会場をあわせて、モノサシトンボ、アジアイトトンボ、ギンヤンマなど12種類のトンボを観察することができました。

彦根会場 7月23日（土）

朝から天候に恵まれ、たくさんの参加者の方々と遊歩道を歩きながら、賑やかな観察会となりました。参加者多数のため、澤田講師とともに2名の講師補助の方にもお越しいただき、トンボの解説をお願いしました。親子での参加者が多く、子ども達の中には、今日の観察会で初めて自分の手でトンボを捕まえたという小さ

なお子さんもいて、自然に関心を寄せていただく、良いきっかけになったと思います。また、保護者の方々も童心にかえり、子ども達に負けず懸命にトンボを追う姿が見受けられました。

この日観察できたトンボは、ウチワヤンマ、チョウトンボ、オニヤンマ、アオモンイトトンボなど11種類でした。

愛荘会場 9月24日（土）

今回の観察会は、曇り空の下での開催となりました。曇天のせいか、気温もあまり上がりず、最初はトンボの数も昨年度より少なく感じました。しかし、その天候のお陰でしょうか、この地域ではなかなか見られない珍しいトンボを、いくつか観察することができました。山地の森林に囲まれたところなどで見られるミルンヤンマ。奥まった溜め池に飛んでいたオオルリボシヤンマとネキトンボ。初めて目にするトンボに参加者の皆様も興味津々でした。

空を見上げると、はるか高いところを多くのアキアカネが飛んでおり、その数に圧倒されました。これから里におりてくるのでしょうか……。

この日に見つけたトンボは、ミルンヤンマ、オオルリボシヤンマ、ネキトンボ、オオアオイトトンボ、オオシオカラトンボなど12種類でした。

トンボ観察会〜子ども達の感想〜

辻美知佳 島小学校3年

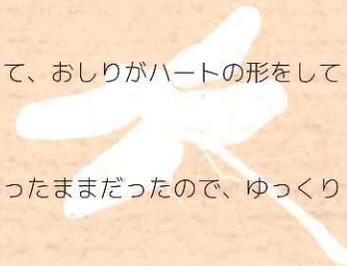
トンボかんさつ会にさんかして、ウチワヤンマを初めて見ました。近くにいたので、つかまえようとしたけどにげてしまったので、くやしかったです。でも、色んなしゅるいのトンボを見れたので楽しかったです。

山本真由香 金城小学校4年

わたしは、トンボの観さつ会で、イトトンボを2ひきつかまえました。トンボの目は2ひきともちがう色で2ひきともきれいで目がよく見えそうでした。イトトンボは、小さくてかわいいトンボでした。今までは、トンボは大きいのばかりだと思っていたけど、細長いトンボや小さいトンボがいると知りました。見つけてつかまえてじっくり観さつできたので楽しかったです。

矢田雅 佐和山小学校4年

大きなトンボがとまっていたので、そっと後ろからあみを近づけると、つかまえることができました。「おしりからたまごが出てる。」とはじめ思ったけどよく見たら、たまごじゃなくて、おしりがハートの形をしているトンボでした。「ウチワヤンマだよ。」と教えてもらいました。にがそうとしても、わたしの指先にじっととまったままだったので、ゆっくりかんさつすることもできました。また、ウチワヤンマに会いたいな。



「エコサロン17」実施報告

「エコサロン」は環境フォーラム湖東の交流会。
詳しくはHP、チラシにて！
<http://www.f-koto.org/>

キリングroupでは、農作物や水などの自然のめぐみがストレートに製品に直結するため、自然が損なわれれば事業が成り立たないという認識で事業展開されています。例えば、原材料となる紅茶葉を生産する農家のレインフォレスト・アライアンス認証（※）取得の支援など、持続可能な資源調達に努めておられます。また、ビンやアルミ缶、カートンなどの容器包装の軽量化を進め、原材料の削減、運送時の燃料削減など、環境負荷を最小限に抑える技術開発にも積極的です。

このように、原材料や流通過程など、事業そのもので環境に寄与する取組は、外部からも評価され、数々の賞も受賞されています。

また、工場内では3Rを徹底しており、ビール粕は飼料に、排水汚泥は肥料に、そして容器包装は再利用やRPF燃料化されています。場内のゴミの分別は、なんと112種類もあるそうです。「従業員の教育はどのようにされているのか」との質問には「慣れれば特別なことをしなくても大丈夫」との回答。

滋賀工場では琵琶湖の水を生産に利用していることから、「『琵琶湖=きれいな水』というイメージを皆さんに持っていただきたい」と語っておられた松並さん。身近なビールにまつわるお話を聞いて、会場のみなさんも環境活動のモチベーションが一層あがったのではないのでしょうか。

※レインフォレスト・アライアンス認証：野生生物の保護、土壌と水源の保全、労働者等の保護、生計の向上などを目的とした、基準に則って管理された農園や森林に対する認証

▼▶ 話題提供の様子



日時 平成28年2月19日（金）
場所 キリンビール（株）滋賀工場 ゲストホール
話題提供 キリンビール（株）滋賀工場
エンジニアリング・環境安全担当部長 松並正純氏

「マザーレイクフォーラム 第6回びわこミ会議」でパネル展示を行いました

8月20日（土）に大津市で開催されたこの会議、今年は「恵み 味わい 暮らし つなぐ」というテーマで行われました。第1部では、川や田んぼ、山、そしてそれらのつながりを考えて活動する5つの団体から報告が、第2部では参加者が15のグループに分かれて、テーマ毎に話し合いが行われました。当フォーラムはパネル展示を行い、生き物調査やシンポジウム開催などの取り組みを来場者に紹介しました。

参加者一人ひとりが今後1年間びわ湖のためにすること＝「コミットメント（約束）」を宣言し、次年度につながる形で閉会となりました。



「稲枝西小学校ウィークエンドクラブ」

～本庄水路たんけん“生き物調査”～

彦根市内17小学校PTAでは、土曜休みが始まった平成12年度よりウィークエンドクラブという行事を行っています。

今回は稲枝西小学校ウィークエンドクラブを紹介します。

開催日：平成28年7月4日
主催：はえみっ子を育てる会、本庄町自治会

講師は多賀中学校の平松光三先生。自分たちが生活している町の、身近な川の中の生き物を探し、その生き物の生態や環境の変化について教えて頂きました。また、子どもたちにとって、地域の方と触れ合いながら地域の良さや大事にしていかなければいけない自然環境についても、気づく時間となりました。



DATA
彦根市立 稲枝西小学校
彦根市本庄町3583
☎ 0749-43-2114